

5月定例所長会見における新潟本社代表挨拶内容

- ただいま紹介のありました新潟本社の木村です。  
まずは、発災から4年が経ち、今なお、新潟県の皆さま、広く社会の皆さまに大変なご迷惑をおかけしていることについて、心よりお詫び申し上げます。
  
- 本日は、柏崎刈羽原子力発電所の立地地域のマスコミの皆さまにご挨拶をさせていただきたいとの思いから、定例の所長会見に同席させていただきました。  
どうぞよろしく願いいたします。
  
- 先月のこの会見で横村よりお知らせさせていただきました通り、4月1日に新潟市内に新潟本部を立ち上げさせていただき、柏崎刈羽原子力発電所と信濃川電力所と三者を合わせて、新潟本社を発足させていただいております。
  
- 新潟県と東京電力のかかわりは、1900年代前半に信濃川水系に水力発電所を建設したことから始まります。  
竣工当時は、東洋一の出力を誇り、それらの発電所のほとんどは、今もなお現役で稼働し、首都圏の暮らしを支えていただいております。
  
- また、1967年からは、柏崎刈羽原子力発電所の誘致、建設、運転と、高度成長期の電力需要の急増を柏崎刈羽地域の皆さまをはじめ新潟県の皆さまのご理解を賜りながら、我々は電力事業を進めてまいりました。  
90年の長きにわたって、首都圏への電力供給を支え続けていただい

ている柏崎刈羽地域の皆さまをはじめ、新潟県の皆さまのご理解とご協力にあらためて深く感謝を申し上げます。

- しかしながら、我々は、4年前の福島第一原子力発電所の事故によって大きなご迷惑をおかけしてしまいました。  
今なお、多くの方々にご心配をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。
- そのような中、「もう一度信頼していただける企業になりたい」との思いから、我々は新潟本社を設立いたしました。
- 「新潟本部」と「柏崎刈羽原子力発電所」「信濃川電力所」の三位一体で、新潟の皆さまのお役に立つことを目指しております。
- 特に、ここ柏崎刈羽原子力発電所では、中越沖地震以降、福島第一原子力発電所の事故の反省も踏まえ、所長の横村以下で、ハード面、ソフト面の両面から、様々な安全対策を進めてまいりました。  
この取り組みを、発電所と新潟本部が連携し、フェースツーフェースの対話活動や施設見学会の実施などを通して、よりきめ細やかなコミュニケーションを通じて、柏崎刈羽地域の皆さま、ひいては新潟県の皆さまにしっかりとお伝えしていきたいと思っております。
- この1ヶ月、県内の皆さまのお声をお聞きし、当社の取り組みをご説明できる体制を整えてまいりました。  
まだ緒に就いたばかりですが、今後、みなさまからのご意見をいただき、そのひとつひとつに真摯にお答えしていきたいと思っております。
- 柏崎刈羽原子力発電所、信濃川電力所としっかり連携し、新潟県の皆さまと同じ目線で物事を捉え、考えていけるよう心がけ、信頼をひ

とつひとつ積み上げていきたいと思っておりますので、皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。

○ 私からは以上です。

以 上